

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500285
法人名	日本医療サービス株式会社
事業所名	グループホーム大川 (ユニット名 グループホーム3階)
所在地	福岡県大川市大字榎津160番地1
自己評価作成日	平成29年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成30年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご利用者が『共に過ごす』という視点を大切にしています。
 日当たりの良い共有空間は、いつもみんなが集まり、さまざまな活動を行っています。
 ご利用者は、お互いに協力しながら何事も行い、馴染みの関係が構築されています。
 今年は、外出する機会も増え、夏祭りや敬老会といったイベントに加え、例年のクリスマス会をもっと大々的に実施するように検討しています。
 今後も私たちの理念である『和』の想いに添ったホームづくりを実現できるよう、みんなで取り組んでいきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業地の一角に6階建てのケアサポートハウス大川があり、事業所は3階と4階の2ユニットで運営している。広々とした日当たり良好の居住空間を有している。医療法人が母体で医療、福祉の連携が取れていることから、安心した生活が送れるように配慮されている。地域との関りも敬老会等の行事には、住民の参加があり、夏祭りなどの行事には招待を受け参加している。近くの子供園の踊りの披露もある。事業所の理念である「和」には、利用者、家族、職員が仲良く調和し、利用者の人権と尊厳を守り、住み慣れた地域で安心して生活が出来る事を目指している。新管理者と職員が一丸となって、運営の向上や体制改善に取り組んでいる。職員は「利用者に喜んで貰える様に」を心掛けた支援に努めており、温もりと優しさを感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアができるように、常に職員間で話し合っている。 また、申し送りや日報報告の際などに、管理者とケアの方向性を確認し合っている。	運営理念に「和」と掲げ、職員は入職した時に理念、基本方針について学び、理念に沿うようなケアに取り組んでいる。常に認識出来る様フロア入り口に掲示しており、「利用者、家族、職員」が調和する事を中心にしている。又、利用者がここでの生活が楽しくなるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や近所のスーパーに出かけている。また、地域の行事に参加したり、行事に招待したりしている。	利用者は、職員と一緒に近くの公園やスーパーに出かけたり、地域の夏祭りにも参加している。敬老会には家族の他、区長、民生委員を始め、地域の方が慰問に来られている。職員は地域の清掃に参加し、地域の集まりでは介護教室を受け持ち、グループホームの職員が話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年介護教室を実施している。 運営推進会議を通して、町内会長から介護教室の依頼も増えてきていて、地域の方々との交流も深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、近況報告や意見交換を行っている。 防災訓練では、消防署も交えて活発な意見交換ができ、今後につなげている。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しており、地区の区長や民生委員が参加されて、利用者の近況報告や、行事等の意見交換をしている。今後は運営推進会議の日程を決め、イベントを催して、多くの家族の参加につながるように検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年は管理者変更や計画作成担当者の変更もあり、事業所の実情報告など、例年以上に担当者との連絡を密に行っている。	新管理者になってからは以前にも増して、頻繁に市の介護保険課の担当職員を訪問している。職員が働きやすいようにと、一日の配置時間の変更にアドバイスをもらうなど、より良い支援体制改善の為の相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、高齢者虐待・身体拘束廃止の勉強会を実施し、その理解に努めている。 やむを得ない場合になった時の報告・連絡・相談についても徹底している。	職員は全員入職時に、身体拘束に関わる研修を受け、法人内でも年一回研修があり職員は参加している。研修の議事録や身体拘束等の記事やパンフレットも、職員間で閲覧し確認している。防犯上、玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待・身体拘束廃止の勉強会を実施し、その理解に努めている。 双方の身を守る意味でも、防犯カメラを設置し、その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での学びを活用し、理解を深めるようにしている。また、必要に応じて利用できるよう、関係機関と連携を整えている。	制度については、利用者、家族に入居の時に説明をしており、各階の入口にパンフレットも設置している。現在利用はないが、いつでも対応ができる様にしている。職員は毎年県主催の研修に参加した人が、法人内研修で伝達講習し、学習を重ねている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や改定があった際には、入居者及び家族に説明を行ったのち、理解をいただいた上で、同意書にサインをいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を述べやすいように意見箱を設置しているが、実際の投書は見られず。定期的に介護相談員の来訪があり、意見や要望を外部に表せられる機会を設けている。	直接意見を言いづらいことも考慮し、各階のエレベーター前に意見箱を設置している。投書はないが直接意見を言われる家族もある。利用者の担当職員と家族との、より良い関係づくりを進めている所である。	利用者や家族等の意見を運営に反映させていくことは、より良いサービスの向上につながると思われる。家族等だけの意見交換のあり方について、今一度検討する機会を持つことを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングでの意見交換や必要に応じての個別面談を実施している。	毎月定期的にミーティングを実施し、勤務体制についての意見交換を行っている。利用者にも、より良い支援を実施する為にも、意見を述べ易い様にしている。個別の意見は相談できる体制にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループ内の人材育成委員会による勉強会や、それに基づく自己評価により、人事考課を行っている。 就業環境の改善と向上に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女問わず、幅広い年齢層の職員を採用しており、職員間の関係も良好である。	法人は広域に多種の事業所を展開しており、入職時には所属先や勤務の形態等、可能な限り希望に添えるようにしている。法人内の栄転もあり、転勤の希望も受け入れている。研修や自己啓発のための休暇取得にも配慮があり、働きやすい職場環境を目指している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ケアの場面を通じ、利用者本位の視点のとらえ方を共に考えるようにしている。	法人内で年一回、人権学習を実施しており、参加できなかった職員にも共有できるように、研修内容の説明や、プリントの閲覧をしている。職員は、利用者の人権が保てるような接遇に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成委員会主導の勉強会の開催や、外部研修の支援(補助)を行っている。資格取得に向けた取り組みも強化している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互に見学訪問するなど、同業者と交流する機会を設け、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの話し合いや、要望や不安に思っていることを1つずつ確認しながら安心して利用できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学の時の聞き取りや、利用に至るまでの話し合いの中で、事業所に求めることや困っていることを確認し、信頼していただけるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主観的にならないように、職員の意見も聞きながら、多様な視点で、必要な支援につながるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『共に過ごす』という視点を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時の近況報告や情報交換の機会を大切にしている。生活は別にしているも、『共に過ごしている』という関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人間関係や社会とのかかわりを把握し、その関係を継続する支援に努めている。	利用者の中には、墓参りや行きつけの美容院等に家族と出掛けたり、市内の地理に詳しい人は、近くの公園に出掛けたりしている。職員はさりげなく同行し、見守っている。地域のボランティア団体が、デイサービスで催しをする際には職員と一緒に参加している。長年の間には利用者同士の馴染みもできている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴・性格を把握したうえで、他者との交流を楽しめる環境を作ったり、共同生活が円滑に行えるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を重視し、いつでも相談できる体制であることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や行動の把握を通じて得た情報や家族との情報交換などから、思いを読み取り、本人本位に検討している。	利用者の表情、動作等を観察し、心を開いてくれるような声掛けを行いながら、日々のケアを通して思いや意向の把握に努めている。介護計画書を、家族に説明する際に意向を伺い本人本位になるように検討して反映している。職員は申し送りノートで周知し、利用者の要望に沿えるように取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居段階で得た情報に加え、日々の援助関係の中でもアセスメントを深め、記録をすることで情報共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの共有及び介護計画に基づくモニタリングを活用している。また、日々の記録にも注意しながら情報共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向や職員からの情報を収集し、介護計画を作成している。	介護計画は、主治医等の医療関係者からは往診時に意見を伺い、本人、家族の意見や要望を聞き取り作成している。評価を毎月、担当職員が行っており、現状に即した介護計画となっている。介護計画書は、全職員が周知しやすいように個人記録のファイルに収めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の記録はそこに記載するようにしている。また、日誌にも特記事項を記載することで見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応に努め、その時に必要な支援ができるよう、勤務体制の変更などを行っている。家族や来客者が宿泊できる設備もある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、外出支援などを行っている。全職員が地域資源を把握するまでには至っていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はそれまでのかかりつけ医で受診することも多いが、家族が受診に付き添うことが困難な場合は、訪問診療の説明を行っている。	病院受診は、入居前からのかかりつけ医であるが、本人、家族が希望すれば、事業所の協力医に変わることもある。事業所の訪問医師による月2回の往診で、健康管理を行っている。かかりつけ医の病院受診時は家族に送迎を依頼しているが、困難な場合は職員が送迎や受診支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携を締結し、週1回配置するとともに、24時間体制で、緊急時等のアドバイスを得られるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった日に医療機関のMSWIに情報を伝達している。また入院中も状況の報告をいただいている。常に報告・連絡・相談をすることで、信頼関係を構築している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を確認し、状態をみながら事業所としてできることを説明し同意をいただくようにしている。	入居時に看取りについての説明をしており、重度化した場合は終末期の在り方について家族の意向を再度確認している。職員は家族と話し合った看取りの同意書に沿ったケアで対応している。家族が泊まれる部屋も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的な勉強会にて対応方法の意識付けを図っている。 また、AEDの実技勉強会にも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日の防災点検や、年2回の防災訓練を行っている。その際に、地域の方の参加もいただいている。	年2回、避難訓練を実施し、避難経路も分かりやすい表示をしている。居室入口は利用者の身体状況が分かる目印がある。火災報知器、スプリンクラーの設置や備蓄もそろえている。5月に実施した夜間想定での防災訓練に、地域の方の参加を得て、訓練を見学してもらっている。今後、有事の際の協力体制につなげていく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけや対応に配慮している。 周りに高い建物はないが、着替えの際にはカーテンをするなど気掛けている。	居室の窓や入り口からの視線を考慮して、カーテンや戸を閉めプライバシーの確保に努めている。 共用トイレの札を化粧室と名前を変えることでも、言葉かけやケアにおける配慮をしている。個人ファイルなどは事務所で管理し、事務所入口は施錠している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけには配慮している。 時にはジェスチャーを用いたり、イエス・ノーで答えられる質問を試みたりと気掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の希望や体調を優先し、臨機応変に対応できるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を選べるように支援している。 また外出行事を増やすことで、お出かけ時にはおしゃれをする利用者も増えてきています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけ、台拭きなど、日によって変わりはするものの、一緒になって行うことを大事にしている。	昼食と夕食は厨房で作られ、盛り付けを食堂でしている。朝食は、食材を厨房からもらい、食堂で料理している。イベントに合わせた献立を厨房に依頼しており、誕生日には、誕生者の好きな食べ物を昼食やおやつに作るようにしている。利用者は使い慣れた箸や茶碗、コップを持参しており、料理の盛り付けや食器洗いを職員と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細かい方に対しては、嗜好物を準備したり、医師から栄養剤を処方してもらっている。また、同じ建物の栄養課に相談しながら、バランスの良い食事を提供するよう心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをおこなっている。自分では困難な方に対しては、ガーゼを使用し口腔内の清潔を保っていただくように支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が継続できるように支援している。できない場合は、何故できないのかを、職員間で話し合い、可能な限りトイレで排泄ができるように日々考えている。	職員は排泄チェック表で利用者の排泄パターンを共有し、利用者一人ひとりに合わせたトイレでの排泄を促している。排泄の場面において、できるところは自身でしてもらい、自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談しながら下剤の調整を行ったり、バランスの良い食事・睡眠・適度な運動を心がけている。日々工夫を重ねながら、下剤を減らせるように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴できる体制である。午前中も入浴できる体制にしていけることが今後の課題である。	毎日、午後より入浴の時間を設定しており、入浴を拒まれる場合は理由をさぐり、無理強いすることなく個々に浴った入浴している。シャンプーや石鹸類は事業所でも準備しているが、使い慣れたものを使用することもできる。入浴剤は三種類の準備があり、入浴を楽しむ工夫もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態観察を行い、状況に応じて休息をすすめたり、清潔な寝具で安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに内服薬の説明書をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションやカラオケ大会、おやつ作りなど、行事を通して気分転換や、行事ごとの役割など、張りのある生活ができるよう気掛けている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公用車で買い物ツアーに出かけたり、家族の協力を得ながら、馴染みの理髪店に行ったりとしている。 地域の協力体制に関しては、今後の課題である。	季節の花見や地域の夏祭りに参加し出かけている。今後は、野球や相撲の観戦、買い物など希望に沿えるようにしていく予定もある。普段は行けない場所へも出かけられるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら、金銭管理の方法を検討している。 預り金の際は、金銭出納帳を利用し、定期的に家族に報告をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って家族に電話したり、家族からの電話を取り次いだりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えたり、空調が職員目線での設定にならないよう留意している。 定期的な換気も実施している。	事業所は3階と4階にあるため、食堂などは眺めの良い明るい共用空間となっている。室内は適温で、対面式台所と食堂兼リビングは広く、食器の音がしたり、炊飯器の匂いが漂ったりして生活感がある。利用者は思い思いの所でゆったり過ごしており、心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ、お好きな場所で気の合う仲間との会話や歌など、楽しまれている。 また、一人で読書されたりと、自分の時間を有意義に過ごしていただけるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者・家族と相談しながら、個々に応じた居室に配慮している。 馴染みの物の使用や、使い慣れた者の持ち込みも歓迎しているが、不安にならないよう個別に対応している。	入居前に居室のクリーニングをしている。居室にはトイレと洗面所、ベッド、机、椅子が備え付けとなっている。 家族の写真やテレビ、タンスなど本人、家族の使い慣れた馴染みの物を持ち込むことができるため、居心地よく過ごせるような配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力の把握に努めている。 手すりや段差のないフロアなど、リスクを回避できるような環境づくりを心掛けている。		